
理解できない

木下 葉子

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

理解できない

【Nコード】

N8383T

【作者名】

木下 葉子

【あらすじ】

かわいくて、ちょっと変わった幼なじみと一緒にいる男の子のお話。超短いです。すぐくぬるいですが男×男の表現があるので、苦手な方は避けてください。

(前書き)

ラブコメ目指して撃沈しました！汗

数か月前、晴れて高校生になった俺には同い年の幼なじみの女の子がいる。

長いまつ毛に縁取られたくりくりのおおきな瞳。
人形と見間違っほかに整った顔のパーツ。

小さい肩。白い手足。

昔とは違う年相応のやわらかそうな体。

栗色のウェーブがかかった髪。

桜色の薄い唇からもれる、鈴が鳴るような可憐な声。

物心つく前から一緒にいる俺でも一瞬固まってしまっほど、彼女は完ぺきな容貌をしている。

家が隣同士で一緒に朝登校しているというだけで、俺が同学年の男子から一斉に目の敵にされてしまっほど。

だがこんなもんに騙されちゃいけない。

あいつはやけにきれいな皮を被った、ただの変態だ。

その変態は今日も、2つとなりの俺の教室にやってくる。
だが決して思春期特有の甘酸っぱい理由ではない。

走って来たのだろう。

上気して赤く染まった頬に、動揺の色が隠せない男子が数名いた。
隠せよ。

そして呼吸を落ち着かせ、とびきり可愛らしい恥じらった表情で
俺に言う。

「シヨウ、あのね、えっと」

「ゆい、わかったから。ちょっと落ち着いて話せ」

俺の言った言葉に反応して、心底うれしそうに口角をあげて笑う。
こんな輝くような笑顔のときには、残念ながらもう彼女の言うこ
とは決まっている。

「あのね、あのね、今日電車に乗ってたイイ感じの高そうなスー

ツ着てたメガネのリーマン覚えてる？

俺様鬼畜攻めが絶対似合つと思わなかつた？！

もう、朝から萌えちゃったよ。

あ、なんだつたらシヨウ絡んできてもいいよ！許可してあげる。
スーツ鬼畜メガネ×黒髪学ランか……。

きゃー！萌えー！！
」

……嗚呼。

なんで俺は、こんな変態が好きなんだろう。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8383t/>

理解できない

2011年10月9日03時33分発行